



守山バウンドテニスクラブの仲間たち



バウンドテニスの練習風景

# 「健康も充実感も」欲張りスポーツの面白さ

## 守山バウンドテニスクラブ

### バウンドテニスは 日本生まれのニュースポーツ

バウンドテニスとは、昭和55年にメルボルンオリンピックでレスリング金メダルを獲得した笹原 正三さんが考案・開発したニュースポーツです。

3メートル×10メートルのカーペットコートで、高さ50センチのネットを挟んで打ち合う、テニスと卓球を混成したようなルールです。



まだグラウンド・ゴルフほどメジャーではありませんが、屋内競技なので天気に左右されず、コートも広くないので、いつでも誰でもできるメリットがあります。

スポーツの楽しさと健康づくりの両面を充実させた生涯スポーツとして注目され、日本選手権や全国大会が開催されるほどになっています。

### 何コレ、楽しい 体験会で出会ったスポーツ

クラブ代表の松本 益規子さんと副代表の杉田 悦子さんは、平成30年に親子で体験会に参加して、初めてバウンドテニスに出会いました。とても楽しかったので、ぼちぼちと準備を進めて翌平成31年4月に「守山バウンドテニスクラブ」を立ち上げました。

松本さんはスポーツ初心者、杉田さんは全く違うジャンルのスポーツをしながらの参加でした。松本さんは「始めたばかりの頃は、少しプレイしただけで息

があがって倒れそうになっていました。でも楽しくてね、続けているうちに体力がついてきたのでしょうか。今はゲームもできるようなりました」とうれしそうに話していました。

実力派からゆったり参加まで自分のやりたいスタイルで

バウンドテニスには、相手の返しやすいボールを打ってラリーの本数を競う「BTラリー」と、競技性の強い、相手を打ち負かす「シングルス」「ダブルス」という種目があります。テニスや卓球など競技経験がある人(故障や加齢で転向した

人を含む)や若い参加者の中には、「シングルス」「ダブルス」で競技スポーツの側面を楽しんでいる人もいます。長年ソフトテニスをやっていたという上野 かつおさんは、今年の日本選手権でベスト8まで勝ち進んだ実力者です。

勝負や試合より、健康づくりを目的にしてラケットを振るメンバーもいます。チームのコート係をしている森 絹代さんは「初心者で入って、試合には出ていません。全身を使うスポーツで楽しいから続いています。目的に合わせてではなく、その日の気分や体調に合わせて自分のやりたい練習に参加しています」と話していました。

### いろいろな楽しみ方ができる 生涯スポーツの奥深さ

発足当時から、バウンドテニスを普及させようと県内各地で体験会などを開催してきてきた北村 敏子さんと松岡 伸二さん(真バウンドテニス協会は、発足から5年となる今でも守山クラブに参加していて、指導者というより、すっかり仲間のようになっています。

松岡さんは「県内にくくも

のグループができましたが、選手育成を目指すグループやジュニアチーム、高齢者で構成しているグループもあります。いろいろな楽しみ方ができることがバウンドテニスの奥深さであり生涯スポーツの魅力といえるところ。守山クラブはメンバーのバランスも良いと思います」と話していました。

経験も年齢も違うメンバーがスポーツを通して仲間になる

守山バウンドテニスクラブでは、現在40歳代から80歳代まで約20人の仲間がいます。競技経験も年齢も性別も違う仲間なのに、とても仲が良いそうです。毎週1度の練習だけでは物足りないメンバーが近隣のクラブに飛び入り参加することも。選手権のほか各地で交流試合も開かれているので、試合に興味があっても仲間とプチ旅行気分を味わっているといえます。

松本さんたちは、競技スポーツの充実感を体感しながら健康づくりにもなり、仲間との絆も得られる欲張りなニュースポーツ(生涯スポーツ)の面白さを、もっと多くの人に広めたいと考えています。